（第二号）（明治一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十九年三月十五日（水曜日）　臺灣日日新報　第一万五千八百二十號　（一）

臺灣日日新報

本日四頁

殊勲甲の優賞に輝く

敵機動部隊を撃破

清水少將（以下）百六十二柱

【東京發至急報】我を追ひ十五日夫迄我軍に與へたる敵艦を擊沈し殘存艦に對し十五回に亘る攻撃を加へ之等艦艇に相當多數の損害を與へたることは既に發表せられたるが、今回更に十六日午前零時半頃我が攻撃隊は敵艦隊に對し第十五回攻撃を實施し、之等艦艇に對し更に多數の損害を與へたり

この間我が攻撃隊は敵艦隊の動向を追ひ、之が捕捉撃滅に努めたるが、今回攻撃隊の指揮官として攻撃を實施したのは、昭和十七年一月より昨年八月に亘るまでの間ソロモン群島、北東方面において敵艦隊並に敵航空部隊に對し、果敢なる攻撃を加へ、敵艦隊の撃滅並に敵航空兵力の撃摧に多大の貢献をなしたる第六航空艦隊司令長官小澤治三郎中將麾下の部隊であつて、今回の攻撃隊は實に小澤中將麾下の精鋭を以て編成せられたものは昭和十七年十一月三十日ソロモン群島方面において敵艦隊部隊に攻撃を加へ、大巡二隻、駆逐艦二隻に大火災を生ぜしめ敵艦の潰乱を與へ、敵艦隊司令長官ヘンダーソン以下百六十二名を斃したるものである、清水利夫少將は第二航空艦隊司令長官として攻撃隊を指揮し大勲功を樹てたるものありたり

殊勲甲將士の戰歷

功三旭二　清水利夫少將（海兵四十一期）

【東京發至急報】我を追ひ十五日夫迄我軍に與へたる敵艦を擊沈し殘存艦に對し十五回に亘る攻撃を加へ之等艦艇に相當多數の損害を與へたることは既に發表せられたるが、今回更に十六日午前零時半頃我が攻撃隊は敵艦隊に對し第十五回攻撃を實施し、之等艦艇に對し更に多數の損害を與へたり

この間我が攻撃隊は敵艦隊の動向を追ひ、之が捕捉撃滅に努めたるが、今回攻撃隊の指揮官として攻撃を實施したのは、昭和十七年一月より昨年八月に亘るまでの間ソロモン群島、北東方面において敵艦隊並に敵航空部隊に對し、果敢なる攻撃を加へ、敵艦隊の潰乱に多大の貢献をなしたる第六航空艦隊司令長官小澤治三郎中將麾下の部隊であつて、今回の攻撃隊は實に小澤中將麾下の精鋭を以て編成せられたものは昭和十七年十一月三十日ソロモン群島方面において敵艦隊部隊に攻撃を加へ、大巡二隻、駆逐艦二隻に大火災を生ぜしめ敵艦の潰乱を與へ、敵艦隊司令長官ヘンダーソン以下百六十二名を斃したるものである、清水利夫少將は第二航空艦隊司令長官として攻撃隊を指揮し大勲功を樹てたるものありたり

功三旭二　小倉正身大佐（海兵五十期）

【東京發至急報】我を追ひ十五日夫迄我軍に與へたる敵艦を擊沈し殘存艦に對し十五回に亘る攻撃を加へ之等艦艇に相當多數の損害を與へたることは既に發表せられたるが、今回更に十六日午前零時半頃我が攻撃隊は敵艦隊に對し第十五回攻撃を實施し、之等艦艇に對し更に多數の損害を與へたり

この間我が攻撃隊は敵艦隊の動向を追ひ、之が捕捉撃滅に努めたるが、今回攻撃隊の指揮官として攻撃を實施したのは、昭和十七年一月より昨年八月に亘るまでの間ソロモン群島、北東方面において敵艦隊並に敵航空部隊に對し、果敢なる攻撃を加へ、敵艦隊の潰乱に多大の貢献をなしたる第六航空艦隊司令長官小澤治三郎中將麾下の部隊であつて、今回の攻撃隊は實に小澤中將麾下の精鋭を以て編成せられたものは昭和十七年十一月三十日ソロモン群島方面において敵艦隊部隊に攻撃を加へ、大巡二隻、駆逐艦二隻に大火災を生ぜしめ敵艦の潰乱を與へ、敵艦隊司令長官ヘンダーソン以下百六十二名を斃したるものである、清水利夫少將は第二航空艦隊司令長官として攻撃隊を指揮し大勲功を樹てたるものありたり

功三旭三　藤井明義少將（三期）

【東京發至急報】我を追ひ十五日夫迄我軍に與へたる敵艦を擊沈し殘存艦に對し十五回に亘る攻撃を加へ之等艦艇に相當多數の損害を與へたることは既に發表せられたるが、今回更に十六日午前零時半頃我が攻撃隊は敵艦隊に對し第十五回攻撃を實施し、之等艦艇に對し更に多數の損害を與へたり

この間我が攻撃隊は敵艦隊の動向を追ひ、之が捕捉撃滅に努めたるが、今回攻撃隊の指揮官として攻撃を實施したのは、昭和十七年一月より昨年八月に亘るまでの間ソロモン群島、北東方面において敵艦隊並に敵航空部隊に對し、果敢なる攻撃を加へ、敵艦隊の潰乱に多大の貢献をなしたる第六航空艦隊司令長官小澤治三郎中將麾下の部隊であつて、今回の攻撃隊は實に小澤中將麾下の精鋭を以て編成せられたものは昭和十七年十一月三十日ソロモン群島方面において敵艦隊部隊に攻撃を加へ、大巡二隻、駆逐艦二隻に大火災を生ぜしめ敵艦の潰乱を與へ、敵艦隊司令長官ヘンダーソン以下百六十二名を斃したるものである、清水利夫少將は第二航空艦隊司令長官として攻撃隊を指揮し大勲功を樹てたるものありたり

功三旭四　渡邊定中佐（山口）　功四旭四　橋本卓郎少佐（香川）　功四旭六　松田龍生大尉（愛知）　功四旭五　市村佐一郎大尉（福岡）　淸水末男大尉（福岡）　功四旭四　石橋三少佐（大阪）　功四旭五　田淵初雄少佐（福岡）　功四旭四　市村力之助少佐（福岡）　功四旭四　市村力之助少佐（福岡）　功四旭五　淸水和德少佐（愛媛）　功四旭四　石橋三少佐（大阪）　功四旭五　田淵初雄少佐（福岡）　功五旭七　石澤仁太郎一飛曹（宮崎）　功五旭七　久保三次一飛曹（愛媛）　功五旭七　町田忠男一飛曹（愛媛）　功五旭七　久保三次一飛曹（愛媛）　マライ作戰に參加し第二航空艦隊司令長官より感狀を授與されたり

敵機五十二擊墜

ニューギニヤ　ウエワク地區　延三百廿機來襲

【東京發至急報】ニューギニア島方面の我が部隊は三月十一日及び十二日の兩日、ウエワク地區に來襲せる延約三百二十機の敵機を邀撃し、其の五十二機（內不確實二機）を擊墜せり、我が方自爆未歸還六機を出せるも地上損害輕微なり

熾烈な邀撃戰

大損害に敵心膽寒し

【ニューギニア發同盟】ニューギニア島方面に於ける敵の攻撃は依然熾烈を極めてゐるが、この間わが方は最も有利なる態勢を以て之が邀撃に當り、その偉大なる戰果は既報の如くである、即ち十一、十二の兩日においては敵の來襲は延べ三百二十機といふ從來に於ける最大規模のものであつたが、わが方は最も有利なる態勢を以て之が邀撃に當り、その過半を擊墜破するといふ赫々たる戰果を擧げてゐる、この間

社說

急調を要する國民總蹶起

民間防衛強化の決を見て國內體制の强化は其の具體的方途に就いて、既に一應確定したわけの大綱の下に於て、之れは其の具體的實行を期して國民の一致協力を必要とする。而して國家の總力を發揮する爲には一體何を措いても、先づ國民一般の防衛に對する認識を强化することが緊要であり、これが徹底の爲には、從來の如き官民の間に於ける單なる協力の關係を超えて、官民一體の關係を確立せねばならぬのである。

◇

元來國防の總力發揮に當つて、國民の協力を必要とすることは、今更言ふまでもないことであるが、從來の國防觀念は、單に軍人軍隊のみの問題であるとなし、國民は唯だ軍人軍隊の後援者たるに過ぎないとの觀念が、一般國民の間に存在したことは、否むことの出來ない事實である。從つて國民は、國防の第一線に立つ

一瞬・敵の船團藻屑

ホルゲン灣 海鷲の神技

「ラバウルに向け輸送船團出動」の報が入るや我ニューブリテン島西端に位して我と同じ地理的環境にあり敵艦隊に對し我と最も密接な關係にある敵ポルゲン灣に對しても我と同じく敵の動きに對して常に神經を鋭くし眼を皿のやうにして來たるべき敵の來襲に備へていたものであらう、敵が我と同じ地理的環境にある

不急事業は全面停止

高雄州十八・十九年度豫算に決戰措置

もつて食糧・増産へ邁進

【高雄電話】高雄州では十三日午前十時から州廳において、部長、郡守、市尹會議を開き、藤山知事官房主事より十九年度豫算に關する打合會を開催、引續き部長會議に移つて左の四點を協議した

飼料保存にサイロ奬勵

高雄州・積極的建設へ乘出す

【高雄電話】決戰下豫算の重點は食糧の增産を期するため畜産奬勵方針を採り、飼料保存のサイロ建設を積極的に實施することになつてゐるが、高雄州にも四百九十二箇の部落中、既に百九十一箇の部落に於いて實施を希望して來たので同州では左の如く

高雄二十、鳳山二十五、岡山九十五、旗山六十四、屏東二十六、恒春二十二、東港四十六、潮州八十五、阿緱二十二の部落を指定、各部落に於ては部落會を開催して、サイロ建設に關する協議をなすこととなつてゐるが、從來の實績が僅か數箇所に過ぎなかつたのに對しては、今回は一躍二百箇所の建設を見る豫定であり、州當局としては、各部落會に於ける協議の結果を見て、更に增設を考慮する方針である

役牛增殖を強化

生産助成の合理化へ

【高雄電話】農業の進展と共に農耕牛の需要は益々增加の一途を辿つてゐるが、昭和十三年に於ける州下の役牛は僅かに一萬四千頭に過ぎず、從つて農耕牛の不足は甚だしく、これが增殖は緊急を要するので、州當局では昭和十三年度より五箇年計畫を以て、役牛增殖五箇年計畫を樹立し、その實施に乘出すことになつた

臺南州農業會

【臺南電話】臺南州農會は、從來の農會組織を改めて、新たに臺南州農業會を設立することとなり、十三日午前十時より同會議室に於て、發會式を擧行した

星明りに進擊開始

青年學校連合演習終る

【臺南電話】臺南州下青年學校連合演習は、十日午後一時より、新化國民學校を中心として、新化、玉井、關廟、山上、龍崎、善化、麻豆、佳里、學甲、北門の十一青年學校生徒參加の下に、新化、關廟、山上、龍崎の四青年學校生徒は、新化國民學校を中心として、善化、麻豆、佳里、學甲、北門の六青年學校生徒は、善化國民學校を中心として、それぞれ二日間に亘り、夜間行軍を行ひ、十一日午後三時より、新化國民學校に於て、各隊の集合點呼を行ひ、解散した

産業戰士の殊勳甲

不屈敢闘篤農家の光榮

【嘉義電話】嘉義郡大林庄の篤農家として、夙に知られた、林海發（四四）、林海福（四二）、林海龍（三十）の三兄弟は、昨年十月、海發の長男、林清松（二十）が、現役兵として、臺南第二連隊に入營するに當り、三兄弟は、父母の許を離れて、別居することとなつたが、三兄弟は、それぞれ、別居後も、父母の許に、一日交代で、通ひ、父母の世話を、怠らなかつたが、今回、清松が、入營するに當り、三兄弟は